

人材育成が欠かせません。港エリアでは年度始めに『目標・自己評価表』を作成し、中間・期末時に自己評価を行います。資格取得や専門知識の習得は大切ですが、何よりもチームでの仕事を意識できる職員に育ってほしいと思っています。各々がチームでの自分の役割を考え、他の職員から学び、自分の強みを発揮し頼られる存在になれば、エリアの機能は各段に向上するに違いありません。

今回、港エリア長の任命も受けましたので、以上の事が実現するよう、エリア全体に情報とメッセージを発信し、職員の意識改革と事業の連携を図って参りますので、皆様のご指導、ご支援をよろしく願いいたします。

ワークスいけじまに赴任して
ワークスいけじま
管理者 十川 知巳

当施設は平成9年11月に港第二育成園の分場施設として開所し、一旦企業就労したものの体力的・年齢的な問題理由などから離職した方、またリストラ等で退職を余儀なくされ再就職が叶わなかった方の「それでも働きたい」という声に応えるために働き続ける場を提供するという形で施設運営を続けてきました。平成22年4月に港第二育成園より独立し、「就労継続支援B型事業所」に移行しました。移行後に利用者の定員や職員数が増えたりしましたが、従来と変わらず、『企業に代わる、働く場としての機能を果たす』ことを基本としています。

現在20名の利用者が在籍(定員20名)し、昨年一日あたりの平均利用者数は18.92名でした。平均年齢が48歳9ヶ月で毎日のように誰かが通院のために遅刻や早退、欠席をする中でこの平均利用者数は低いものではないと思います。ほとんどの方が企業就労を経験し、働くことの辛さを知っている中で、「それでも働きたい」と毎日ワークスいけじまに通い仕事をする姿には頭が下がる思いです。今年度4名の職員の内、3名が入れ替わり、職員が不慣れな中、毎日の作業は利用者さんによって回っているといっても過言ではありません。

ワークスいけじまにはずっと抱えている課題があります。先にも述べましたが平均年齢がもうすぐ50

歳に届こうかという数字であるからには当然保護者の方の年齢も高いため『親亡き後』の暮らしについて、それぞれに考えなくてはいけない課題になります。幸い当法人の港エリアには多種多様な事業が存在し、またワークスいけじまもその一つとして機能しているのです。様々な事業を活用して今後、それぞれの利用者の方が安心して暮らしていけるよう、また安定して働き続けることのできるよう支援していきたいと考えています。

最後に今年度ワークスいけじまの管理者として転入し、不慣れなことも多く利用者、保護者の方にはご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが一日も早く管理者の仕事に慣れ、他の職員とともに利用者の方を支援させていただければと考えておりますので今後ともよろしく願いいたします。

日常生活を大切にする視点を持って
大阪市育成会地域生活支援センター
管理者 横井 妙子

4月1日より地域生活支援センターの管理者を拝命いたしました。

管理者という責務の重さに戸惑いもありますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

これまで、港第二育成園、港育成園、福島第二育成園、福島育成園で勤務をさせていただきました。港エリアには13年間在籍し、その後、福島エリアに4年間お世話になりましたので、港エリアには4年ぶりに戻ってきたこととなります。しかし、支援センターでの勤務は初めてということで、着任してからの数日は細かい日常のことに追われて過ぎていきました。今後は港エリアでの支援センターの役割を確認していくことが必要であると感じています。

福島育成園では、入所施設と通所施設の統合という節目に立ち会うことができました。新しい施設を立ち上げる気持ちで取り组ませさせていただきましたが、気持ちのどこかでこれまでの施設の形態にとらわれてしまい、既にあるものの形を変えていく大変さを痛感いたしました。しかし、環境が変わる瞬間の利用者のたくましさを目の当たりにし、教えられることの多さに頭が下がる思いでいっぱいでした。ローテーション勤務でありながらも、スタッフひとり一人がひとつ

